



品目	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
小ぎく	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台風23、24号で風害等や一部で立枯れやアザミウマ被害が見られるが、生育は順調に推移している。本格的には11月中旬から増加してくる見込み。</li> </ul>	<p><b>現状</b></p> <p>各地月を通して数量不安定な入荷。10月に関しては特別大きな需要がないため、引き合いに関しては数量の多い少ないによって価格の変動がある状況。上旬に関しては各色少なく、中旬以降色目によっては多く、色目によって少ない状況となった。</p>
	<p>大田花き</p>	<p><b>見通し</b></p> <p>10月と同様、月を通して不安定な入荷となる。沖縄に関しても徐々にではあるが入荷始まっていく。上旬は少なめで、中旬以降沖縄に関しては色目揃ってくる見通し。その他、静岡、山形中心に比較的稳定した入荷となる見込み。価格に関しては、特別大きな需要はないものの、入荷も少ないため安定したものとなる見込み。</p>
	<p>FAJ</p> <p>東日本板橋花き</p> <p>世田谷花き 第一花き</p>	<p>入荷少なくなり、色、品種に偏りがでてくる。業務中心の引き合い。数量少なく堅調な相場。</p> <p>中旬頃より沖縄が始まり、ある程度価格帯は落ち着くだろう。</p> <p>11月から沖縄産が入荷する。数量によるが、安定した動きか。</p> <p>徐々に産地の切り替わりになってくるが、全体的に少なく安定した流れ。 @40</p>
トルコギキョウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部でコナジラミや蛾類の発生は見られるものの、生育は順調となっている。</li> </ul>	<p><b>現状</b></p> <p>福島、秋田など高冷地がまだ出荷中、福岡、静岡、熊本と西南暖地が出始め、トルコギキョウ全体の数量がまとまり、軟調な取引。10月いっぱいでは高冷地が切り上がり、西南暖地中心の販売となる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出荷が開始されており、前進傾向。品質的には、夏の暑さでステムが細く、丈は短め。11月の中下旬にまとまってくる見込み。</li> </ul>	<p><b>見通し</b></p> <p>西南暖地中心の入荷になっていく。販売に関しては、寒気が入り極端に数量が減ると、市況的にも上がってくると予想される。</p>
	<p>FAJ</p> <p>東日本板橋花き</p> <p>世田谷花き</p> <p>第一花き</p>	<p>熊本、静岡など暖地中心の入荷へ移行する。宴会中心での取引が続く。</p> <p>高冷地が終了してくるので、全体としては数量落ち着いてくる。</p> <p>高冷地の出荷も終盤を迎え、入荷量も落ち着く。</p> <p>ブライダル、業務需要中心の流れ、入荷状況にもよるが概ね例年並み。 @100</p>
バラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作柄は盛夏の影響から回復しつつある。</li> <li>・一部のほ場でタバコガの発生が見られる。</li> </ul>	<p><b>現状</b></p> <p>国産は出荷の山が高冷地、暖地共に多くなり、10月20日近辺を境に出荷量が減少へ向かう。本年度は例年に比べ、梅雨明けが早かった為、下位等級の出荷量が多い。輸入品は円相場の関係もあり、エクアドル、コロンビアの出荷は少ない。ケニア産は潤沢感があり、相場浮上が困難な状況。インド産は国産の下位等級が多く、重要も少なく、出荷も止まる状況。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年のような夏季の高温による影響はほぼ見られず、一部でうどんこ病が散見されるものの、生育は概ね順調。気温低下に伴い、品質の向上や出荷量の増加が見込まれる。</li> </ul>	<p><b>見通し</b></p> <p>気温低下と共に国産品の出荷量も落ち着き、下位等級の出荷も少なくなってくる。輸入品は先月と変わらない出荷量と思われる。インド産に関しては、販売価格次第で入荷量が決まる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生育は概ね順調。</li> </ul>	<p>東日本板橋花き</p> <p>世田谷花き</p> <p>第一花き</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数量も増加しており、現状日量3,000ケース弱。だいぶ品質も安定してきており、上位等級も増加傾向にある。</li> </ul>	<p>台風と急な冷え込みで入荷量減少傾向。</p> <p>群馬、愛知、静岡いわず暖地物の引き合いが強い。文化の日、勤労感謝の日がらみの引き合い強い。</p> <p>ブライダル、業務需要中心の流れ、品種、品質による単価差はでる。 @100</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者も加温し始めたため、ある程度安定した出荷が見込め、出荷量としては前年並みの見込み。</li> <li>・中旬から下旬にかけて徐々に出荷量が多くなると思われる。</li> <li>・生育状況は順調で、品質も徐々に良くなってきており、上位階級の発生率も上昇傾向。</li> </ul>	
アルストロメリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生育は、9月の気温が平年より高く推移したものの地中冷却が徹底されたことから、昨年より順調に推移している。</li> <li>・11月の出荷量は、概ね前年並みと見込まれる。</li> <li>・病害虫の発生は少なく、切花品質は良好である。</li> </ul>	<p><b>現状</b></p> <p>10月第一週まで9月から高値が続いていたが、台風通過後の気温の上昇により、急激に数量が増加し、需要も減退。相場の大きな変わり目となった。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜温が下がっていることもあり、生育、発色ともに良好。加温しながら今後ゆっくりと増加してくる。</li> </ul>	<p><b>見通し</b></p> <p>主産地は愛知、山形、長野となり、数量は増加傾向に入るが、気温の低下してくれば、数量は横ばい。各産地新品種も出揃い、上位等級の割合も増えてくる。</p> <p>440,000本 @80</p>
	<p>FAJ</p> <p>東日本板橋花き</p> <p>世田谷花き</p> <p>第一花き</p>	<p>引き続き長野、山形中心の入荷。入荷もまとまり、堅調な動きとなる見込み。</p> <p>愛知、青森、福島中心の入荷。業務中心の動き。</p> <p>数量増加。品質も向上し、業務等の引き合い強まる。</p> <p>業務需要中心の流れ、入荷も少なく安定した流れ概ね例年並み。 @120</p>
ストック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生育初期にあたる8月下旬の気温が平年並みからやや低く、その後、9月の気温が平年より高く推移したことから、順調に進んでいる。</li> <li>・11月の出荷量は、昨年と比較して多いが、概ね前年並みと見込まれる。切り花品質は、気温の低下に伴って、草丈の伸びや花穂のボリューム感などが向上している。</li> <li>・コナガ等の病害虫による被害はほとんどなく経過している。</li> </ul>	<p><b>見通し</b></p> <p>引き続き東北中心の入荷。千葉は台風の影響もあり、今後の生育次第。気温低ければ安定相場となる見込み。</p> <p>山形、福島の出荷が本格化。下旬には千葉産も始まり、潤沢。</p>